然雁が飛び立ったのを見て、敵がかくれていることがわかり、大合戦になっただど。
権五郎景正は必死に戦って、夢中で敵の中に斬りかかっていったんだど。
その時、突然左の眼に矢がささり、その眼からはどろどろと血が流れ、その形相は鬼のようであっただど。
それを見た近くの者が、景正の眼の矢を抜こうとして、顔に足をのせて引き抜いたところ景正が
「武士の顔面に足をのせるとはふとどきなやつ。」
と猛り狂っただど。
それから、
「この矢を射た者は誰だ。名を名のれ。」
と大声で探し歩いただど。
その時、